

10th Anniversary

多摩区・3大学連携協議会 10周年記念誌



多摩区・3大学連携協議会



the Tama Ward Office



Japan Women's University



Meiji University



Senshu University

専修大学

明治大学

日本女子大学

多摩区役所



多摩区・3大学連携協議会10周年記念誌

多摩区・3大学連携協議会 協定締結10周年記念トップ懇談会



専修大学長
矢野 建一 氏

明治大学長
福宮 賢一 氏

川崎市長
福田 紀彦 氏

日本女子大学長
佐藤 和人 氏

ご挨拶

多摩区内に立地する専修大学、明治大学、日本女子大学の三つの大学と川崎市(多摩区)は、各大学の知的資源や人材を活用し、地域課題の解決に向けた取り組みを行うため、2005(平成17)年12月に協定を締結し、「多摩区・3大学連携協議会」を設立しました。

この度、協定締結10周年事業の一環として、現在までの10年間の歩みを記録し、次なる10年を展望するため、ここに多摩区・3大学連携協議会10周年記念誌を発刊することといたしました。

今後も各大学との連携を密にし、区民の皆様にとって住みよいまちづくりに取り組んでまいりますので、引き続き皆様の御理解、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、この記念誌の編集に御協力いただきました関係者の皆様に厚く感謝の意を表しまして、発刊の挨拶とさせていただきます。



川崎市多摩区長
中村孝也



Contents

- 3 多摩区・3大学連携協議会
協定締結10周年記念トップ懇談会
- 6 多摩区・3大学連携協議会
10年の歩み
- 8 大学・地域連携事業
- 10 3大学知的探訪
- 11 多摩区3大学コンサート
- 12 学生の声
- 13 大学紹介

多摩区・3大学連携協議会協定締結10周年を記念し、2015年9月28日(月)に3大学の学長と川崎市長による懇談会を開催しました。「大学と地域との連携」や「これから果たすべき役割」について、各リーダーの考え、思い、展望を語り合いました。

司会(中村孝也・多摩区長) 多摩区・3大学連携協議会協定締結10周年という節目にあたり、3大学の学長と市長に、将来を見据えたビジョンやアイデアなど、率直に意見交換していただき、今後のさらなる発展に向けた知恵を生み出す契機としていきたいと思ひます。

矢野建一・専修大学長 専修大学は生田の丘の上にキャンパスがあります。私自身も生田キャンパスの出身者で、学生時代には多摩区内に下宿していましたので、なじみを持っています。創立時のことを顧みても、地域と結びつきの強い大学です。これからも多摩区との連携をしっかり進めていきたいと考えています。

福宮賢一・明治大学長 明治大学には

4つのキャンパスがあります。その中で生田キャンパスは理工学部と農学部の1年生から4年生、そして大学院生まで、一貫した理系学生の学びの拠点となっています。これからも理系2学部の特長を活かした地域連携を進め、多摩区に貢献していきたいと考えています。

佐藤和人・日本女子大学長 日本女子大学は、西生田に最初、高等学校、中学校、その後、人間社会学部ができました。1901年の創立時より社会に貢献するというのが創立者の思いでしたので、10周年を機に新たな展開を模索していきます。

福田紀彦・川崎市長 協定締結から10周年を迎えたことをまず感謝したいと思います。これから自治体の役割は大きく変わっていきます。単純な窓口業務は少なくなり、多様な主体を連携させていくことが区役所、また市役所にとって重要になります。大学との地域連携も社会問題を解決する主体の連携として、進化を遂げると思ひます。3大学は川崎市にとっては重要な財産、宝だと考えていますので、より深い付き合いをさせていただきたい。

人口減少社会における大学の役割

司会 川崎市は若い都市と言われ、2030年までは人口増加を見込んでいますが、年少人口は今年度がピークだと推計しています。川崎市では、将来を見据えて乗り越えなくてはならない第一の課題に少子高齢化を挙げています。社会構造が変化していく中で、各大学では地域貢献をどのように位置づけられ、また、どのような取り組みができるでしょうか？

専修大 人口は確かに減っていますが、特に若者が都市部、都心に吸い寄せられていくことが問題です。川崎では南北でだいぶ様相が違い、抱えている問題も違うと思いますので、それを踏まえた取り組みが必要でしょう。たとえば外国からの子女の問題などは、教育機関である大学機関との連携で取り組みます。

明治大 社会全体として18歳人口の減少を捉え、将来にわたって労働力、豊かさ、富の維持という大きな問題に直面

しています。高い生産力を維持するためには、多くの人が高等教育を受けることが大切であり、その層をより厚くする必要があります。このことは、基礎学力を身に付ける場である初等、中等教育の重要な問題でもあります。また、いじめや自殺の問題などを解決するためにも、高等教育と初等、中等教育は、地域の中で課題に応じた連携を構築していかなければなりません。本学では、キャンパスのある中野区と異文化間交流を核とした連携を実践し、学生も参加しています。多摩区でも同様な試みができるのではと思っています。

日本女子大 18歳人口の減少で大学は厳しい時代に入っています。同時に大学のあり方を見直す良い機会です。特に女性の力が必要とされ、活躍しなければならない時代にも関わらず、女性を取り巻く環境が1901年の本学創設時と比べ、大きく変わったとは言えません。4年間で基礎的な力をつけると同時に生涯教育を受けられる。例えば、リカレント教育*課程では、子育てなど様々な事情で、いったんキャリアブレイクした人が大学に戻ってきて、最新知識とスキルを身につけ、また外に出て行く。多様性を持った大学独自の特色を出していく大切な時だと考えています。

市長 各区によって人口ピラミッドも、高齢化率も全く違っていて、多摩区では、今年が人口のピークです。急速な高齢化率の高まりは、これまで高齢化が問題となってきた地域と危機的な状況の質が違います。一方で、高齢化イコール老齢化ではありません。元気で知的な高齢者が増えているという意味ではいろいろな可能性を秘めた地域だと考えています。このように川崎市は国の縮図のように、いろいろな課題を持った「課題先進都市」と言っているでしょう。先ほど初等、中等との接続が大切だと言うことを指摘いただきました。川崎市でも習熟度別の学習をモデル的に取り組んでいます。

明治大 子どもたちが、大学へ行くとこんな面白い研究ができるのだと思ってくれることで、勉強に取り組むきっかけになればと思い、科学教室などを行っています。

ます。これは大学の知的資産を還元するためでもあります。他方、所得格差が基礎学力の習熟度の差につながるよう、公教育の中で対応していただきたい。お手伝いできることがあれば喜んでさせていただきます。

市長 「わからないままにさせない」という取り組みは自治体の役割だと考えています。地域の寺子屋事業も始めています。寺子屋先生に学生さんたちが入ってくれるとうれしいですね。



川崎市長 福田 紀彦 氏

専修大 いわゆる高大接続の取り組みとして、キャンパス周辺にもある協定校と教育交流を行っています。また、リカレントの取り組みにも力を入れています。

日本女子大 どんな大学でも今、初年次にモチベーションを高める教育が必要です。学ぶモチベーションを初等、中等教育に組み込んでいくことができればいいと考えています。

市民、学生を巻き込んだ地域連携が求められる

市長 この10年いろいろなテーマで事業がありましたが、単年度で終わっている取り組みが多いようです。もう少し息の長い取り組みがあってもいいと思うのですが。

明治大 本学では社会連携機構が生涯学習、地域連携の二つの機能を受け持っています。コンテンツはたくさんあるのですが、マンパワーが限られています。市民・区民がサポート隊として関わってもらえると大学としては大変ありがたい。市・区と大学、市民ボランティアの三者が一体となるイメージですね。

市長 川崎市には、市民のための大学「かわさき市民アカデミー」の卒業生たちがいます。学ぶ意識が高く、意欲がある

人たちですので、そういった市民の方々が活動する受け皿を作っていくとよいのではないのでしょうか。

明治大 市・区と大学と市民の三者の役割がうまく結束できると社会連携のありかたが変わっていくでしょう。

市長 専修大の学生さんと話す機会があったのですが、地域での活動に関わったことがある学生は、キャンパスがある多摩区に愛着を持ってくれている。そうでない学生との違いは大きい。何らかの関わりを持ってもらうチャンスを提供していかなくてはと思いました。

明治大 キャンパスのある多摩区を第2のふるさとだと思ってもらいたいですね。

日本女子大 本学では「SAKU LABO (さくらぼ)」という地域連携の場があり、小田急線読売ランド前駅の商店街とコラボレーションし、お菓子の開発などの取り組みが行われています。学生は場を与えられると力を発揮します。先輩から後輩へと地域との関わりが引き継がれている。そして、多摩区で学んだことを誇りに思っています。

市長 話は変わりますが、川崎の人口の約2%は外国人市民。以前は韓国・朝鮮籍の人が多かったのですが、10年間に大きく変わり、中国籍の人が一番になり、ベトナム籍の人も増えています。

専修大 大学でも同じくベトナムからの留学生が増えつつあります。

市長 日本全国のトレンドと同じですね。

専修大 防災、救急の対応が外国人に不十分だという話を聞いているので、改善してもらえらると多摩区に住みやすくなるでしょう。



専修大学長 矢野 建一 氏

*リカレント教育…社会人が必要に応じて大学等の教育機関を利用して、繰り返し教育を受けること。

市長 最近シェアハウスが作られています。20代、30代はそれを求めている。そこに留学生を招いていければ、新しい価値の創造になるでしょう。

女性のキャリアを支援する

明治大 女性の仕事復帰、社会での新たな活躍を支援する「女性のためのスマートキャリアプログラム」を履修証明プログラムとして始めたところ、30代、40代でいったん職を離れていた人が再チャレンジしたいと、あっという間に定員に達しました。社会的ニーズがあると再認識しました。



明治大学長 福宮 賢一 氏

市長 大企業の社長さんたちと話す機会があったのですが、待機児童の問題をしっかりと取り組んでほしいと言われる。企業の研究職は女性が多く、2年間現場を離れられると企業としては大変厳しい。なんとか待機児童対策、女性の働く環境を作ってほしいと。

明治大 最近は「リケジョ(理系女子)」とよく言われますが、現在、本学の農学部は約46%が女性です。農学部ではバイオ、食物関連の女性研究者の育成に積極的に取り組んでいます。

日本女子大 行政の女性・家庭へのサポートはまだ不十分です。病児保育、土日の保育が整うと、キャリアブレイクが起こりにくい。

市長 各区に病児・病後児保育施設を順次整備しており、現在7区中5区まで来ています。

明治大 女性だけでなく、男性も含めて皆が働き方を変えていくことが必要であり、社会の仕組みを変えていかなければなりません。川崎市がその先端を行って

ほしいですね。

日本女子大 市では専門職のリカレント教育はされているのですか？

市長 どこも人材確保が難しい時代です。なかなか現場を離れると難しいのが実情ですが、再教育プログラムを行っています。

これからの10年へ向けて

市長 日本には技術、研究成果があるのに社会実装ができないで海外流失している。川崎市全体で実装していき、社会変革を生み出すような取り組みをやりたい。それに対する規制改革も自治体の役割だと考えています。川崎市民は147万人もいて、いろいろな切り方でコンパクトにもなる。実証、実装のフィールドとしては最高だと思います。これをうまく活用して市民に還元したい。これからさらに協議会で踏み込んで進めていきたいですね。そのためには、地域貢献することによる大学のメリットを明確に示してもらった方が良いでしょう。

専修大 大学は教育機関であり、教育の一環として、学生たちを実社会の課題に関わらせたい。川崎市で地方公務員、行政の現状を学ばせてもらえれば、大学としても教育面でのアピールができます。

明治大 行政での実習の一例として、本学創立者の一人の出身地・天童市で、学生がふるさと納税制度を活用した提案をしたところ、2013年度6件だった寄付が、2014年度は7億円超、今年度の上半期は12億円を超えているということです。

専修大 大学院生がインターンシップで市の政策立案に取り組めるといいのですが。

市長 研究室単位で関わっていただくことができれば、可能ではないでしょうか。

明治大 学生に地域との関わりの中で気づきや触れ合いを与えたい。今、グローバル人材と言われますが、地域の暮らしの視点を持つことが、その後に大きく役立ちます。

日本女子大 教育・研究成果の社会実装という点も視野に入れ、多摩区との連

携を目白キャンパスも含めて、長期的展望を持って考えていきたいと思っています。



日本女子大学長 佐藤 和人 氏

市長 昨日行われた行財政改革についての市民との対話の中で、「市はどこまでできるのか、具体的に示してほしい」との議論がありました。どこまでできて、どこができないのか。足りないリソースはどこに求め、どう具体的に進めていくのか。3大学の研究で、市や職員がこれはもっと知りたい、使わせてほしいと思うものもきっとあるはずです。地域それぞれの課題はありますが、その基となる部分で共通するところがあります。川崎市モデルを作り、横展開していくことで、川崎市がフロントランナーになっていきたい。そのなかで大学との連携はますます重要になります。これからの10年、チャレンスピリットを持って課題解決のためにさらに強力なパートナーシップを作っていきましょう。

明治大 多摩区・3大学連携協議会は、10年間継続してきたことで、担当者間の連携や情報共有が非常に密であると聞いています。これまで培ってきた関係を強みとして活かしながら、今後も様々な取り組みを展開できればと思います。

専修大 今日はとても貴重な機会だったと思います。今後も継続して多摩区・3大学連携協議会として連携を取りながら、色々なことに取り組んでもらいたいと思います。



各リーダーからの提言をもとに、「多摩区・3大学連携協議会」は、地域課題の解決および地域活性化に向けて、今後さらなる発展を目指します。

多摩区民祭参加



イベントを通じて、区民と大学(学生)の相互参加による交流を推進。2006(平成18)年10月には初めて区民祭に参加し、舞台出演や出店等の出し物を行いました。現在も各大学の学生が参加し、区民祭を盛り上げています。

多摩区・3大学連携 協議会 10年の歩み

2005-2015



協定締結



2005(平成17)年12月2日、専修大学、明治大学、日本女子大学、川崎市(多摩区)の四者が文教都市としてふさわしい地域社会づくりを目的として協定を締結し、「多摩区・3大学連携協議会」を設立しました。

多摩区・3大学連携協議会



事業を効率よく推進するため、副区長を座長とした協議会を概ね月1回開催。地域連携および地域活性化のための企画を立案し、毎年様々な行事を実施しています。

3大学知的探訪



大学と地域社会が連携して実践的な活動を展開することにより、区内の様々な課題の解決を図ることを目指し、2006(平成18)年に事業展開を開始しました。

詳細はP.8~9をご覧ください

2011(平成23)年10月~12月、多摩区制40周年記念イベントとして、知的資源を地域に還元するとともに区民に大学を身近に感じてもらうため、3大学が各キャンパスで公開講座や見学ツアー等を行いました。大変好評だったため、その後も継続的な開催を目指し、協議会で検討しています。

詳細はP.10をご覧ください

大学図書館の地域開放



協議会に検討部会を設置し、各大学図書館の区民利用(地域開放)が始まりました。2006(平成18)年の明治大学を皮切りに図書館の区民利用を開始。2007(平成19)年には専修大学、2013(平成25)年には日本女子大学と、図書館の地域への開放が広がりました。

※日本女子大学は女性のみ利用可



提供:専大スポーツ編集部

箱根駅伝応援



2006(平成18)年1月から箱根駅伝の応援を開始。専修大学・明治大学が箱根駅伝出場時には、多摩区役所1階アトリウムに特設応援コーナーを設置し、駅伝出場校に応援メッセージを届けています。

大学と地域・多摩区との連携による取り組み

- 2006(平成18)年4月
明治大学生田図書館の地域開放
- 2007(平成19)年4月
専修大学図書館の地域開放
- 2008(平成20)年4月
日本女子大学生涯学習センターとして開設
(西生田生涯学習センターと生涯学習総合センター(目白)の統合)
書き損じハガキの回収【専修】
- 2010(平成22)年3月
明治大学平和教育登戸研究所資料館開館
- 2012(平成24)年4月
明治大学地域産学連携研究センター開館
- 2012(平成24)年9月
藤子・F・不二雄ミュージアム1周年記念開館
イベント「わく多ま!」開催【専修・明治】
- 2012(平成24)年8月
かわさき宙と緑の科学館リニューアルオープンを
記念した名産品の開発【専修・日本女子】
- 2013(平成25)年4月
明治大学東グラウンド地域優先貸出開始
- 2013(平成25)年6月
日本女子大学図書館の地域開放

多摩区3大学コンサート



協議会設立を記念し、2006(平成18)年2月に区内3大学の学生が出演する「多摩区・3大学協議会設立記念コンサート」を多摩市民館大ホールで開催。その後も年に1回コンサートを開催しています。

詳細はP.11をご覧ください

多摩区役所での就業体験(インターンシップ)



多摩区役所での就業体験を通して、学生の職業意識の向上及び区政や地域に対する理解を深めてもらうため、2006(平成18)年2月に3大学の実習生の受け入れを開始。以後も定期的に受け入れを行っています。

多摩区(川崎市)の主なできごと

- 2006(平成18)年2月
市立多摩病院が開院
- 2006(平成18)年6月
登戸駅、南北自由通路及びベデストリアンデッキ等が
本格供用を開始
- 2009(平成21)年4月
川崎市の人口が140万人を突破
- 2011(平成23)年3月
川崎市多摩スポーツセンター開館
- 2011(平成23)年9月
川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアムオープン
- 2012(平成24)年4月
区制40周年
- 2012(平成24)年4月
かわさき宙と緑の科学館リニューアルオープン
- 2013(平成25)年11月
福田紀彦新市長が誕生
- 2014(平成26)年7月
川崎市制90周年
- 2014(平成26)年10月
向ヶ丘遊園駅連絡通路が開通



大学・地域連携事業

「大学・地域連携事業」では、大学の専門的な知見を活かして区内の地域課題を掘り起こし、大学、地域、行政の連携により、課題解決に向けた実践的な取り組みを行っています。課題については、各大学でテーマを設定し、年度末には報告会などを行ってきました。

大学・地域連携事業 これまでの事業(研究)テーマ一覧

年度	専修大学	明治大学	日本女子大学
2006 (平成18)	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地域の 区民ニーズ調査事業	生田緑地フィールドマナー啓発事業	学校教育ボランティアによる学校サポート事業
2007 (平成19)	「都市型観光都市として 多摩タウンセールスの方向」に関する調査業務	多摩川親子教室	
2008 (平成20)	災害・防災に関する事業	生田緑地親子自然教室	
2009 (平成21)		「大学生×商店街」の 地域連携ミニシンポジウム開催	小学生との交流会 「生田緑地で新しい発見?」開催
2010 (平成22)	多摩川周辺地域住民のための 体験型河川学習コンテンツの開発	弁当の日による地域連携活動	多摩区におけるデジタル地域地図の 児童・生徒への普及活動
2011 (平成23)	Pick up! 大地のつくりが学べる学習教材の体験		
2012 (平成24)	かわさきワンセグ×かわさきFM 「たまキャンパスライブ」番組配信事業	Pick up! まちなか研究室(地域住民の交流拠点)の 創出事業	Pick up! 寺尾台団地における高齢者への 生活支援事業～住・食・交～
2013 (平成25)			
2014 (平成26)	川崎市多摩区の農業生産者と 消費者の交流促進に関する事業	「まちなかギャラリー」による コミュニティ交流創出事業	_____
2015 (平成27)	_____	郊外丘陵住宅地の 生活基盤創出・検討支援事業	_____

Pick up! 専修大学【大地のつくりが学べる学習教材の体験】 2011(平成23)年度
ネットワーク情報学部 准教授 上平崇仁、准教授 栗芝正臣



登戸小学校での教材紹介の様子

手助けをしました。また、この取り組みをもとに、小学校教員向けに体験型教材の作り方や考え方の手引きとなるような報告書も制作されました。

なお、ネットワーク情報学部の専門性を活かした理科補助教材の制作は、毎年度続いており、本学学生と登戸小学校生徒の相互の学びの場となっています。



登戸小学校での教材紹介の様子



Pick up! 明治大学【まちなか研究室(地域住民の交流拠点)の創出事業】 2012(平成24)年度・2013(平成25)年度
農学部食料環境政策学科 専任講師 本所靖博



登戸東通り商店街に開設した「寺子屋」には
多くの子どもたちが集いました

各種イベントに参加し、地域社会の課題解決の一助となることを目指して活動しました。

主な活動は、(1)寺子屋の運営、(2)商店街のイベントへの運営参加、(3)ラジオ番組の生放送による情報発信でした。寺子屋では2年間で39回開催し、合計で213人の学生、455人の子ども、42人の保護者が参加しました。この寺子屋は、青森県西目屋村では「明治塾」として、また個別の家庭に出張訪問する「出張まち研」として応用した形でも開催できました。これらの活動は後輩たちが引き継いで現在も活動しています。これも、「多摩区・3大学連携協議会」の支援のおかげだと思っています。



商店街のイベントにも積極的に参加。
ここでもたくさん子ども達とふれあいました。



かわさきエフエムで、ラジオ番組
「学生まちなか研究室」を制作・放送しました。

Pick up! 日本女子大学【寺尾台団地における高齢者への生活支援事業～住・食・交～】 2012(平成24)年度・2013(平成25)年度
社会福祉学科 准教授 黒岩亮子



企画実施を楽しんだ学生たち

寺尾台団地においては、女子大カフェをきっかけに、有志による月1回の「団地カフェ」も開催されるようになりました。毎年、団地理事会役員とゼミ学生の話し合いの場を持つこととし、たとえば見守りを希望する人への支援のあり方を一緒に考えるといった関わりも生まれてきています。



ハロウィンパレード後のお疲れさま会



地域の方々にお世話になっています





3大学知的探訪

「知的探訪」は、各大学の特色を活かし、地域との交流や大学の知的資源の地域還元を図るプログラムです。近隣にあっても普段なかなか入る機会の少ない各キャンパスの見学ツアーや特別公開講座などを通して、「知る」楽しさを体感することができます。

3大学知的探訪 これまでの開催プログラム一覧

年度	専修大学	明治大学	日本女子大学
2011 (平成23)	11月12日 ・基調講演「小田急沿線の生活風景」 ・講演「川崎市多摩区と向ヶ丘遊園」 ・講演「高度経済成長期における多摩区と専修大学のあゆみ」	10月15日 ・公開講座「明治大学及び生田キャンパスの歴史・由来」 ・登戸研究所資料館見学	12月3日 ・キャンパス内の水田記念公園を散策 ・成瀬記念館西生田記念室見学・講演「西生田キャンパスの歴史」
2012 (平成24)	12月1日 ・講演「川崎の古墳を考える」 ・キャンパスツアー	10月27日 ・公開講座「明治大学の知られざるキャンパスの歴史」 ・登戸研究所資料館及び生田キャンパス研究施設・設備見学	12月8日 ・キャンパス内の水田記念公園散策 ・成瀬記念館西生田記念室見学・講演「西生田キャンパスの歴史」
2014 (平成26)	_____	7月5日 ・公開講座「明治大学の知られざるキャンパスの歴史 登戸研究所と中野学校」 ・登戸研究所資料館及び生田キャンパス研究施設・設備見学	_____
2015 (平成27)	7月4日 ・公開講座「日本語の風景～文字はどのように書かれてきたのか～」 ・講座に関連するギャラリートーク ・公開講座に係る古典籍などの展示	10月10日 ・理工学部一日体験授業「低温の世界」「金属の旅」ほか ・特別講座「戦後70周年に登戸研究所と戦争遺跡を考える」 「発酵食品の美味しさとたしなみ方」ほか ・見学ツアー「登戸研究所資料館・史跡見学」「研究施設・設備見学」ほか	11月14日(予定) ・講演「戦争で挫折した西生田女子総合大学構想」 ・展示「女子大創設の恩人 広岡浅子」 ・学食体験

Pick up!

専修大学【公開講座とギャラリートーク】 2015(平成27)年度



専修大学図書館が所蔵する古典籍などを題材とした公開講座「日本語の風景～文字はどのように書かれてきたのか」を開催し、先人達が日本語を文字に書き写すときに行ってきた様々な工夫の跡を紹介しました。また、公開講座で紹介する古典籍などを展示した図書館特別企画展を10日間にわたって開催し、公開講座当日には講師によるギャラリートークを行うなど、多くの多摩区民の方々に本学の持つ「知」に触れていただきました。



Pick up!

明治大学【協議会締結10周年記念～地域に向けたオープンキャンパス～】 2015(平成27)年度



老若男女どなたでも参加でき、希望の授業や見学ツアーを各自が組み合わせて参加できる企画となりました。理工学部・農学部のカンパスという特徴を活かし、「教員と一緒に実験ができる一日体験授業」や「身近な食べ物をテーマにした授業」「最新の研究施設を見学できるツアー」などを開催し、親子で楽しむ姿も多く目にしました。また、現在のキャンパスが、旧日本陸軍の登戸研究所の敷地であったことから、その当時の様子がわかる「登戸研究所資料館や史跡の見学ツアー」や資料館館長による「登戸研究所に関する特別講座」なども行いました。戦後70周年ということもあり、関心度も高く、こちらも多くの方に参加してもらいました。



Pick up!

日本女子大学【水田公園散策と講演】 2012(平成24)年度



本学では「日本女子大学 西生田キャンパスの歴史と紅葉を楽しもう!」を開催しました。西生田キャンパス内にある森(水田記念公園)の環境科学の講演や、森について長く研究している本学名誉教授のガイドによる森林散策を行い、さまざまな樹木や紅葉の美しさを楽しんでいただきました。その後、学食を体験。西生田キャンパスの歴史について講義を受講した後に、学内にある成瀬記念館西生田分室で、本学ゆかりの展示物を見学していただきました。



多摩区3大学コンサート ～水と緑と学びのまち～

多摩区・3大学連携協議会の設立以来、毎年行われている「多摩区3大学コンサート」は、3大学の学生の若さと個性溢れる演奏で、大変好評をいただいています。また、各大学の演奏の合間に行われる3大学や多摩区にちなんだクイズ大会も人気のプログラムです。

多摩区3大学コンサート 出演団体一覧

年度	月日	専修大学	明治大学	日本女子大学	総司会	来場者数
2005 (平成 17)	2月8日	専修大学フィルハーモニー管弦楽団	明治大学マンドリン倶楽部	箏曲倶楽部	専修大学	約 550 人
2006 (平成 18)	9月29日	専修大学グリーン・サウンズ・オーケストラ	明治大学リーダー部、吹奏楽部、バトン・チアリーディング部	フォルクローレ愛好会	明治大学	約 400 人
2007 (平成 19)	10月9日	マンドリンクラブ	New Wave Jazz Orchestra	日本女子大学合唱団	日本女子大学	約 350 人
2008 (平成 20)	10月3日	専修大学吹奏楽研究会	New Wave Jazz Orchestra	日本女子大学合唱団	日本女子大学放送研究会	約 450 人
2009 (平成 21)	12月12日	三曲研究会	ビートルズ探偵団ストロベリーフィールズ	合唱部(日本女子大学附属高等学校)	日本女子大学放送研究会	約 400 人
2010 (平成 22)	10月2日	混声合唱団カッパコーラス	New Wave Jazz Orchestra	箏曲倶楽部	専修大学 アナウンサー 講座	約 370 人
2011 (平成 23)	10月1日	スカバンド研究会スフィード	Wind Orchestra	フォルクローレ愛好会	専修大学 アナウンサー 講座	約 450 人
2012 (平成 24)	10月13日	Emo Hill (アカベラ)	Wind Orchestra	弦楽クラブ(日本女子大学附属高等学校)	専修大学アナウンサー 講座	約 650 人
2013 (平成 25)	10月5日	混声合唱団カッパコーラス	New Wave Jazz Orchestra	箏曲倶楽部	日本女子大学放送研究会	約 450 人
2014 (平成 26)	10月4日	マンドリンクラブ	Wind Orchestra	フォルクローレ愛好会	専修大学放送研究会 AREA	約 520 人
2015 (平成 27)	11月28日 (予定)	ギター同好会	New Wave Jazz Orchestra	しゅわクローレ (フォルクローレ愛好会、手話サークルあやとり)	専修大学 アナウンサー 講座	





学生の声

このコーナーでは、多摩区・3大学連携協議会の活動に実際に携わった学生さんたちの生の声を紹介します。



●専修大学「多摩区役所インターンシップでの有意義な経験」



経済学部経済学科
月精 茉衣さん



多摩区役所でのインターンシップは8日間あり、3つの部署で実習を行いました。区役所の仕事に対し具体的なイメージを持つことができ、職員の方々が何を意識して行動し、区民の方々と接しているのかを学ぶことができました。幼い子供を持つ親御さんに向けたイベント企画やニヶ領用水路の管理、放置自転車対策や公園整備、選挙業務と部署によって行う仕事は様々で、区役所の業務の幅広さに驚きました。

どの業務においても職員の方々の管理だけでなく地域の方々との連携が大切であり、自分が普段何気なく通っている道や訪れる公園の安全、町の景観が守られているのは職員と地域の方々の努力があるからなのだと、実習を通じ感じました。

また、限られた予算の中で区民の方々の要望に対し、何を一番優先すべきか考え、公平かつ最大限の対応を職員は常に心がけていることを学ぶことができ、働くということについて考える有意義な経験となりました。

●明治大学「まちづくりに携わりたい ～まち研プロジェクトに参加して～」



農学部食料環境政策学科
2014年3月卒業
和田 尚子さん



世田谷区役所へ入庁して今年で2年になります。大学入学当初、私は自分が地方公務員になるとは夢にも思っていませんでした。

大学2年生のころ、地域活動で活躍する先輩方の姿を見て、私も目標となるものを見つけたいと思い、ゼミや学科の友人と有志で「まち研プロジェクト」を立ち上げ、多摩区・3大学連携事業に参加する機会を得ました。この事業では寺子屋の運営や商店街主催のお祭りの企画運営など地域活動に積極的にかかわってきました。そのなかで「まちづくり」の楽しさや、地域貢献にやりがいを感じ、地域住民と直接関わり、貢献することのできる地方公務員を目指すようになりました。

現在私は、主に区役所の窓口業務を担当していて「まちづくり」という形ではありませんが、とりわけ住民と接することの多い職場にやりがいを感じながら仕事をしています。そんな中でも、「まちづくり」に携わりたいという強い想いがあるので、いずれは「まちづくり」を担当したいと思っています。

●日本女子大学「地域の方々とのふれあいから得た喜び」



人間社会学部 社会福祉学科 3年(手話サークルあやとり)

「まちカフェ」では、普段手話に関わりを持つことのない子どもたちに手話に興味を持ってもらおうと、手話を交えた歌を披露しました。子どもたちが一生懸命楽しそうに手話を覚えようとする姿を見ることができ、とても嬉しかったです。子どもたちをはじめ、地域の方々とお話しすることができ、私たちにとても、有意義な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。



人間社会学部 社会福祉学科2年(フォルクローレ愛好会)

3大学コンサートに参加させていただいたときは、大きなホールでの演奏にとっても緊張しました。しかし、聞いてくださった地域の方々が、手拍子で私たちの演奏に参加してくださったことに感激し、演奏する喜びを感じることができました。今回も参加することができ、本当に嬉しいです。新たに加わった1年生や手話サークルの仲間と楽しみながら、地域の皆さまに披露したいと思います。



社会知性の開発をめざす

キャンパス名
設置学部・大学院
専修大学 生田キャンパス
経済学部／経営学部／商学部／文学部／
ネットワーク情報学部／人間科学部
大学院 経済学研究科／文学研究科／
経営学研究科／商学研究科
約14,000人
川崎市多摩区東三田2-1-1
小田急線「向ヶ丘遊園」駅徒歩約14分

歴史と伝統に育まれ、21世紀にふさわしい大学へ

1880(明治13)年、専修大学の前身である専修学校は、米国留学から帰国した若き俊英が、専門教育によって近代国家の屋台骨を支える有為な人材を育成するため、日本初の経済科と私立初の法律科を併設した高等教育機関として創立しました。

創立70年を迎えた1949(昭和24)年には、新たに生田キャンパスを開校し、以来、学生のチカラ及び教育・研究の成果が地域社会の発展に寄与するよう取り組んでいます。



「社会知性」を身につけ、社会で活躍する人材を輩出



社会に役立つ人材を育成することは、本学が担う使命の1つです。2014(平成26)年に「新たな学士課程教育」を導入したことで、高校と大学、教養と専門の間のギャップをなくし、大学生・社会人として汎用性の高い知識や能力をより確実に身につけることができるようになりました。21世紀ビジョン「社会知性の開発」を実現するため、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に、一人ひとりの個性を大切にしながら、社会で活躍できる人材を輩出していきます。

キャンパス整備でより充実した教育・研究環境を

更なる国際化の推進を図るため、単なる宿泊施設ではなく、留学生と日本人が日常的に交流する環境の中で、グローバルな人材を育成する教育寮としての機能も有した「専修大学国際交流会館」が2014(平成26)年に完成しました。

また、学生が積極的に学ぶアクティブラーニングの中核施設と、大学院の研究環境を整備することで、「社会知性の開発」の新しいシンボルになると期待される「新2・3号館(仮称)」も2017(平成29)年4月利用開始をめざし、建設中です。



地域貢献活動を通して、川崎市と共に発展していく



地域の企業や団体、商店街が抱える課題に、学生が主体的に取り組み解決策を提案する「課題解決型インターンシップ」や、市民自身が社会的課題の発見から解決を、ビジネス手法の活用により進めていく術を学ぶ「KSソーシャル・ビジネス・アカデミー」の開講、生涯学習の一環として市民の知的好奇心に応える公開講座・シンポジウムの実施など、高等教育機関として研究成果などの知的資源を地域社会に還元するよう取り組んでいます。



「個」を強くする大学

キャンパス名 設置学部・大学院	明治大学 生田キャンパス 理工学部／農学部 大学院 理工学研究科／農学研究科
学 生 数 所 在 地 ア ク セ ス	7,555人 川崎市多摩区東三田1-1-1 小田急線「生田」駅徒歩約10分

「権利自由」「独立自治」の建学の精神を胸に。明治大学は、世界へ。

明治大学は、強い「個」を目指す教育を揺るぎない伝統として継承し、歴史を重ね、社会に貢献する有用な人材を送り出してきました。これからも時代を見据え、世界的な教育・研究拠点となり、世界規模で活躍できる人材を育成するトップユニバーシティを目指します。

生田キャンパス学部紹介

緑豊かな多摩丘陵の高台に位置する広大な生田キャンパスには、最新の研究・実験設備から温室や自然の地形を生かした園場があります。この恵まれた施設を利用して、理工学部、農学部の学生が大学院まで含めた一貫教育のもとで学んでいます。

【理工学部】

科学技術の最先端で自ら未来を切りひらくチカラを

電気電子 生命学科	機械 工学科	機械情報 工学科	建築学科
応用 化学科	情報 科学科	数学科	物理学科

理学とは、自然界の基本法則を探索する学問、工学とはそれを応用して人類に幸せをもたらす技術を創出する学問を指します。日々高度化し、多様性を増す現代の科学技術分野では、理学と工学の両方から研究や技術開発にアプローチできる広い視野をもった人材が求められています。理工学部では、少人数制の実験・実技授業、工学と理学を融合させた授業の充実を図り、未来ある若者を育成しています。



【農学部】

農学科	食料動植物の生産 環境問題への対策
農芸化学科	食品成分の構造・ 機能・安全性の追及
生命科学科	動植物と微生物の 基礎的研究
食料環境政策学科	食料の流通 農業経営

地域の方々も大学へお越し下さい

地域産学連携研究センター



神奈川県域その他の新技術・新産業創出支援の目的で設立されました。レンタルラボ、高度分析加工装置、多目的室・会議室の地域への貸出しのほか、生涯学習講座リバティアカデミーの開催を含め、本学が有する知的資源に基いて地域連携活動を展開しています。

【問い合わせ・予約】TEL.044-934-7250 平日 9:00～17:00／土曜日 9:00～12:00

平和教育登戸研究所資料館



明治大学生田キャンパスはかつて旧日本陸軍が秘密戦のための兵器などを研究・開発していた登戸研究所の敷地でした。キャンパス内には登戸研究所時代の史跡がいくつか残されています。現在、資料館となっている建物も研究施設として使用されていました。

【問い合わせ】TEL.044-934-7993 開館時間：水曜～土曜 10:00～16:00



明治大学リバティアカデミー

リバティアカデミーは、本学の生涯学習拠点であり駿河台キャンパス（東京都千代田区）を拠点に実施していますが、生田キャンパス・黒川農場（川崎市麻生区）でも「教養・文化講座」、「資格・実務・語学講座」を中心に展開しています。

【問い合わせ】TEL.03-3296-4423 平日 10:30～19:00／土曜 10:30～15:30



女性が活躍できる社会の実現のために

キャンパス名 設置学部・大学院	日本女子大学 西生田キャンパス 人間社会学部 現代社会学科／社会福祉学科／ 教育学科／心理学科／文化学科 大学院 人間社会研究科
学 生 数 所 在 地 ア ク セ ス	2,110人 川崎市多摩区西生田1-1-1 小田急線「読売ランド前」駅徒歩約15分

自己の可能性を開花させて、それぞれのステージでリーダーになる

日本女子大学は1901（明治34）年の創立以来、学問・社会・国際舞台・地域・企業などで活躍するリーダーを輩出してきました。

「自己の可能性を開花させて、それぞれのステージでリーダーになる」。“Bloom as a leader.”は、学園に集う学生一人ひとりの高い志と、活躍する卒業生たちの軌跡を表しています。



一人ひとりが生かされる、よりよい社会環境を創造する



本学人間社会学部は「人間社会学部」という名称を最初に掲げたパイオニアです。人文科学だけでなく、社会科学だけでもない、まさに「人間と社会」を総合的に学ぶ新しい試みがこの地から始まりました。五つの学科（現代社会・社会福祉・教育・心理・文化）は、それぞれの分野で「人間と社会」を深く理解する「豊かな知」、それを応用して「社会的に実践する技」を学ぶさまざまな授業や少人数制の演習、実習科目を提供しています。

豊かな緑に包まれ、伸びやかな教育環境の実現をめざして

創立者成瀬仁蔵が追い求めた米国の教育環境に近い理想の場所として、それを実現した西生田キャンパスは、四季折々の自然を感じながら、豊かな人間性を育みます。キャンパス内にある附属中学校・高等学校では、学習と自治活動の積み重ねを通じ、生徒は主体的な生き方を学び、豊かな人間性の基礎を培っています。



多摩区との連携により、地域文化の充実と発展を目指す



成瀬が唱えた「大学拡張」構想の精神を具現化するため、行政と連携して地域社会づくりに力を注いでいます。本学学生は多摩区の小・中学校に派遣され、教育現場で指導補助を行うなど、学部特性を生かした地域連携事業を展開しています。生涯学習センターでは、在学生・卒業生・地域住民を対象とした「公開講座（川崎市教育委員会連携事業を含む）」「心理相談」「子育て支援」などを行い、地域との連携・共生を目指し、積極的に門戸を開いています。